



刺激策に結実の兆し

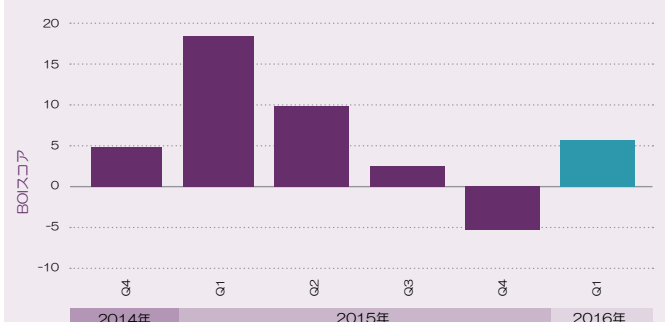
ダン・アンド・ブラッドストリート調査によれば、ほぼすべての企業景況感指数が前四半期比で上昇したが、2015年通年の水準に比べればいまだ控えめな数値となっている。見通しが最も明るいのが公益、卸売、小売の各セクターで、ほぼすべての指標が大幅に上昇した。一方で、鉱業、農業および漁業がほぼすべての指標で大きく下落する結果となった。

- 売上高と純利益が連動した動きを見せ、前四半期の-12%から2016年第1四半期は7%に上昇した。しかし、前年同期比では、売上高が21ポイント減、純利益が20ポイント減とどちらも低下している。見通しが最も楽観的だったのが公益で、33ポイントの純増となり、これに卸売および小売が続いている。一方で最も悲観的だったのが鉱業で、次いで農業および漁業となっている。
- 販売価格は現状維持となり、前四半期比でわずか1ポイント減となった。前年同期比では14ポイント減と大きく下落した。最も楽観的だったのがサービスで、これに卸売および小売が続いている。鉱業は今四半期に15ポイントの純減となり、10ポイント減で建設が続いている。
- 新規受注は、前四半期の縮小局面から今四半期は再度増加に転じ、10ポイント増となった。前年同期比では18ポイント低下した。最も楽観的なのがサービスで、25ポイントの純増となっている。これに22ポイント増の公益が続いている。在庫は前四半期の-10%から、今四半期は-2%に改善し、前年同期比でも2ポイント増となった。
- 今四半期の従業員数は前四半期比で9ポイント増加し、回答者の19%が従業員数の増加を、12%が減少を、68%が横ばいを見込んでいる。44ポイントの純増となった公益が最も楽観的で、これに40%の建設が続いている。農業および漁業はこれと対照的に-8%となった。

政府によるインフラ開発（1兆7,000億バーツ）、4Gサービスなどの小売業向けIT事業の支援、10クラスター型経済特区支援政策など、中小企業および低所得者を対象とした刺激策がより具体的な成果を見せ始めている。次いで政府は、物流コストのGDP比での2%以上の削減を目指している。これは輸送手段を問わず、鉄道、高架線列車、高速道路、スワンナブーム空港のフェーズ2拡張工事などが対象となる。経済振興と投資予算の20%拡大により、民間部門の投資および消費の促進が見込まれる。

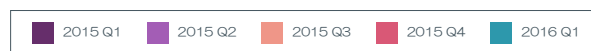
それでも、コモディティ価格の低迷により、農業部門の家計所得はいまだ低いままとなっている。家計債務の割合が高止まりしており、干ばつ問題が長引いている。テロが貿易の機運に水を差し、国際投資は停滞したままである。一方で、観光部門では3,220万人の外国人観光客の訪タイを見込んでおり、中国人観光客が引き続き大幅に増加している。建設セクターでは、今年は10%の拡大が見込まれている。原油価格が1バレル当たり40米ドルを下回ったことで、特に棒鋼などの原材料価格が安定すると思われる。安定的な通貨バーツ安も、パーツ建ての輸出を促進すると考えられる。

総合景況感指数（2014年第4四半期～2016年第1四半期）





売上高



↑
19.0
前四半期比



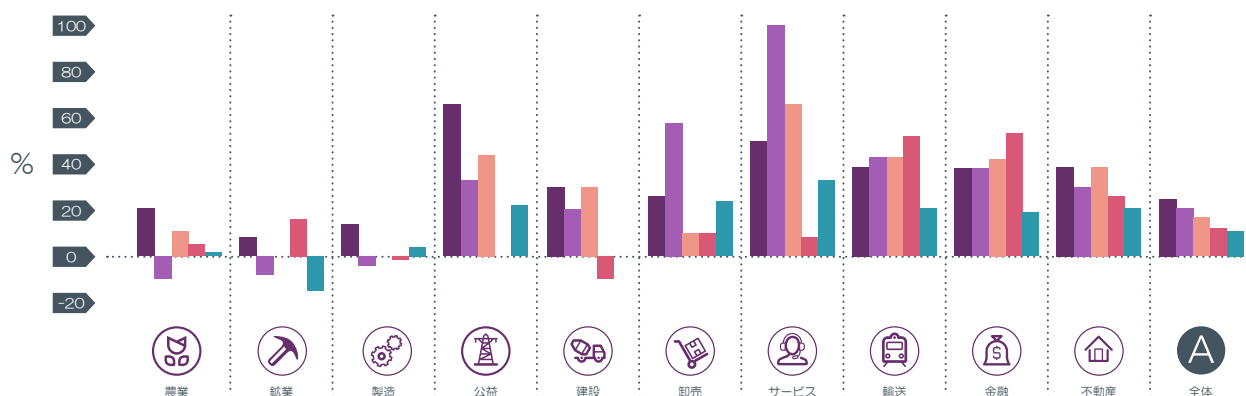
純利益



↑
19.0
前四半期比



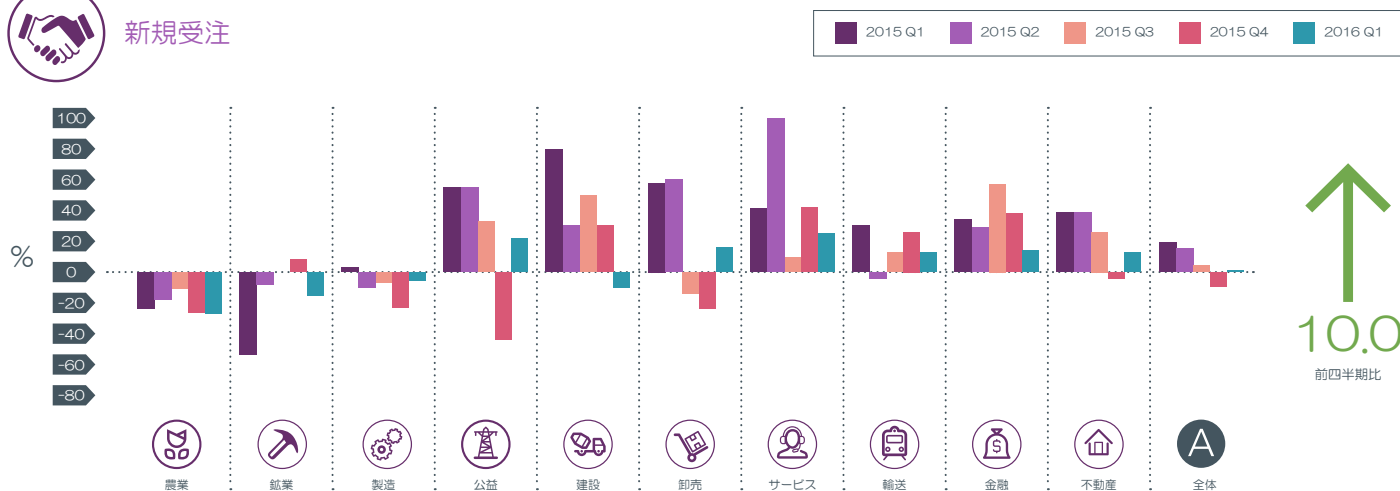
販売価格



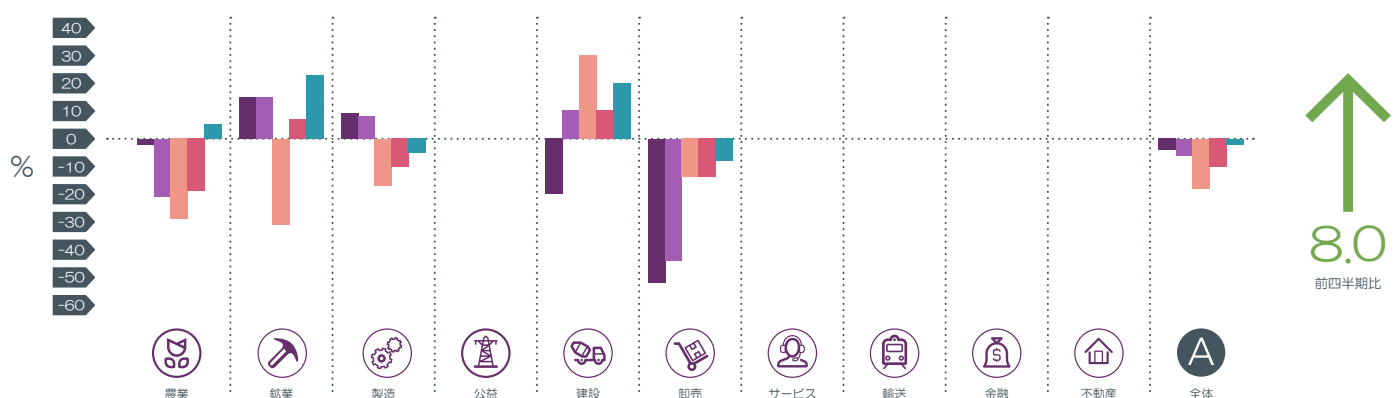
↓
1.0
前四半期比



新規受注



在庫



従業員数

